

1. 生活者との協業を大事にしたい理由

生活者に大事なメッセージをもっと伝える努力が必要。彼らの声を聴く機会を持つことも大事。包装業界は生活者と同じ方向を向いていることを、お互いに把握したうえで前進したい。

2. 包装業界を取り巻く動き

日本の包装業界の最大の関心事は EU の新しい法規制 “PPWR” である。日本の資源循環の動向は、物質フロー図で確認することによって課題問題が見えてくる。

3. 日本における包装材の紙化について

日本では、包装材をプラスチックから紙に変更、あるいは一部材料を紙に置き換える動きが活発化している。ところが、紙の識別表示の表示基準を満たしていても、紙として資源化されないものがある。紙を一部導入したことのアピールで終わっているものもある印象。

4. 海外のリサイクラブルな紙系包装材事例

- Tetra Pak 社はアルミ付紙パックのリサイクルに世界各国で取り組む。
- ポリエチレンとアルミ箔の混合物「ポリアル」の二次利用事例が数多く見られる。

- Nestlé 社は主要ブランドのプラスチック包装材を紙へ急ピッチで切り替えている。

- オーストラリア市場では紙系包装材を一次包装にした商品化が普及している。

5. 紙系包装材をリサイクラブルな設計にするためのガイドライン

世界包装機構により発行された「リサイクルのための包装設計ガイドライン」では、リサイクラブルな包装材の基本条件を知ることができる。バリューチェーンとともにリサイクラブルな包装設計にするためのガイドラインであり、パッケージは “Circular Economy” を実現する “Circular Package” へ、というメッセージが見て取れる。

欧州では、2つのアライアンスが紙系包装材のリサイクル可能性を評価する業界統一ツールを発表している。

6. 生活者へのわかりやすさ

家庭からの回収率を上げるためにすべきこととして、リサイクルに出すために行う作業を簡単にすること、製品によってリサイクルできる部品に差異がある場合は統一することが挙げられる。一例として英国の Jude’s Ice Cream 社の製品の “On-Pack Labeling” を挙げる。ラベルを見

れば、そのパーツをどのように処理することが適切なのかわかる。

7. ドイツの包装の法規制・リユース容器・暮らし・リサイクル

ドイツでは、拡大生産者責任のもとに使用済み容器包装の回収・リサイクルが行われている。ごみ発生量の削減を目的として、1994年のEUの包装及び包装廃棄物指令（PPWD）及びドイツ容器包装廃棄物法により、使用済み包装材は資源回収・再生化の義務を強化した経緯がある。

ドイツ連邦環境省のサイト “Wenigeristmehr” の「少ない方が豊かだ」キャンペーンでは、使い捨て容器を減らし再利用可能な容器の利用を促している。

8. 英国の包装の法規制・資源

前述の “On-Pack Labeling” は英国のほか、北米やオーストラレーシアなどに仕組みがある。

2020年の英国政府公約『Circular Economy Package（循環経済パッケージ）』では、政策実現の柱に EPR を置き、包装税や使い捨てプラスチック製品の禁止を盛り込んでいる。

9. おわりに

包装業界は生活者の声を聴き、包装の大切さを伝え、彼らと同じ方向を向き進化をしていく。

技術士包装物流会 3 月度講演会要旨

日時	2025 年 3 月 1 0 日（月） -- 1 8 : 0 0 ~ 1 9 : 3 0
場所	Teams によるリモート方式
演題	パッケージのサステナビリティ 生活者との協業で描く未来像
講師	缶詰技術研究会 橋本香奈